

## 「みんなのみちづくり計画（次期道路整備計画）」案について ～ひと・まち・やまをつなぐ「みち」～

京都市では、平成 29 年 3 月に策定した「今後の道路整備事業の進め方（以下「現計画」という。）」に基づき、市民の安心・安全の確保や京都のまちの持続的な成長に必要となる道路整備事業を進め、現計画に掲げた 19 路線のうち、これまでに「阪急京都線立体交差事業」、「北泉通」など 7 路線が完成しました。

現計画が終期（令和 7 年度末）を迎えたことから、この度、次期道路整備計画として「みんなのみちづくり計画（以下「新計画」という。）」案を策定しましたので御報告いたします。

新計画案では、市街地の都市計画道路や山間部などの道路において新設・拡幅する「みちづくり」の考え方と、未来の京都に向けて整備を進める「みち（道路）」の具体的な路線を示しています。

### 1 新計画案

**資料 1** 「みんなのみちづくり計画」案

### 2 計画策定の目的・経過

新計画案では、平成 29 年 3 月に策定された現計画の計画期間が令和 7 年度で終期を迎えたことや、令和 8 年 4 月に都市計画道路網の見直しが決定されたことを踏まえ、今後 10 年間で整備を進めるべき「みち」を選定しました。

新計画案の策定に当たっては、「みち」は、京都のまちの文化や歴史が培われた“まち柄”を反映する“京都の顔”であり、「かわ」や「はし」、「みどり」とともに京都の文化的な営みに不可欠な基盤であるという認識のもと、本市の若手職員が中心となり、将来の京都のまちをイメージし、「50 年後、100 年後の京都と、誰もが幸せを感じる『みちづくり』のあり方」について議論を重ね、学識経験者からの助言もいただきながら、「みちづくり」の考え方を取りまとめました。

また、**資料 1** のパンフレットの作成に当たっては、表紙や挿絵を京都芸術大学の学生に御協力いただきました。

### 3 新計画案における路線選定の考え方

新計画案においては、京都の地形的特性を踏まえ、「まちのみち」と「やまのみち」に分類したうえで、これからの京都の「みちづくり」に求められるものとして、以下の4つの考え方にに基づき、選定する路線を検討しました。

#### (1) くらす（住みやすいまち）

車道とともにバリアフリー化された歩道が整備され、楽しく“まち歩き”ができる「みち」。人だけでなく、自転車や車にとっても“移動しやすい”、誰にでも“やさしい”「みち」を目指します。

#### (2) ひらく（災害に対するしなやかさ）

地震や豪雨などの災害時に避難や緊急車両の通行が可能となる「防災・減災」に貢献する「みち」。命をつなぎ、安全・安心に避難でき、地域を孤立させないための強靱な基盤を形成します。

#### (3) きわめる（まちの賑わい）

道路整備によって沿道の土地利用を促進し、新たな商業施設や居住空間の創出を後押しする「みち」。地域の魅力を最大限に引き出し、産業を発展させ、まちの賑わいを生み出します。

#### (4) つなぐ（人やもの、地域とのつながり）

地域間や、駅などの交通拠点と人の暮らしをスムーズに結ぶ「みち」。ネットワークの強化により渋滞を解消し、住んでいる人も訪れる人も快適に周遊できる環境を整えます。

さらに、賑わい創出効果、道路機能（走行時間の短縮効果など）、事業の実現性、早期の効果実感という視点も加え、総合的に判断して整備路線を選定しています。

### 4 具体的な整備路線と新規路線の追加

新計画案では、今後10年以内に道路新設や現道拡幅を実施していく「みち」として15路線を選定しています。現計画から継続して事業を進める「向日町上鳥羽線」、「国道162号川東（第二工区）」、「中山石見線」などの12路線に加え、新規路線として以下の3路線を追加しました。（〔表1〕整備を進める「みち」一覧表及び〔図1〕整備を進める「みち」の箇所図参照）

また、「みちづくり」を進める際には、地域の皆様の御支援や御協力が必要不可欠であり、地域とのコンセンサスを形成しながら取り組んでいきます。

#### (1) 御陵六地藏線（国道1号～新十条通）

山科区（meetus 山科 - 醍醐エリア内）において、南北方向の道路ネットワークの強化、緊急車両の通行や避難しやすさの向上、さらには、まちの賑

わいの創出が期待できます（「くらす」、「ひらく」、「きわめる」、「つなぐ」に該当）。

## (2) 牛ヶ瀬馬場線

残る未着手区間を整備することで、事業中の向日町上鳥羽線などとの接続による道路ネットワークが強化され、京都市南西部の地域活性化と賑わい創出が期待できます（主に「きわめる」、「つなぐ」が該当）。

## (3) 山間地域部分改良

「やまのみち」については、大規模な道路整備だけではなく、山間部における待避スペースの整備やカーブの見通し改善など、早期に事業効果が発現する部分的な改良も計画に位置付けます。

事業実施に当たっては、安心・安全はもとより、地域振興や地域の魅力向上などに貢献できる「みちづくり」について、区役所とも連携のうえ、地域の皆様とともに議論しながら、整備に向けて取り組んでいきます（主に「くらす」、「つなぐ」が該当）。

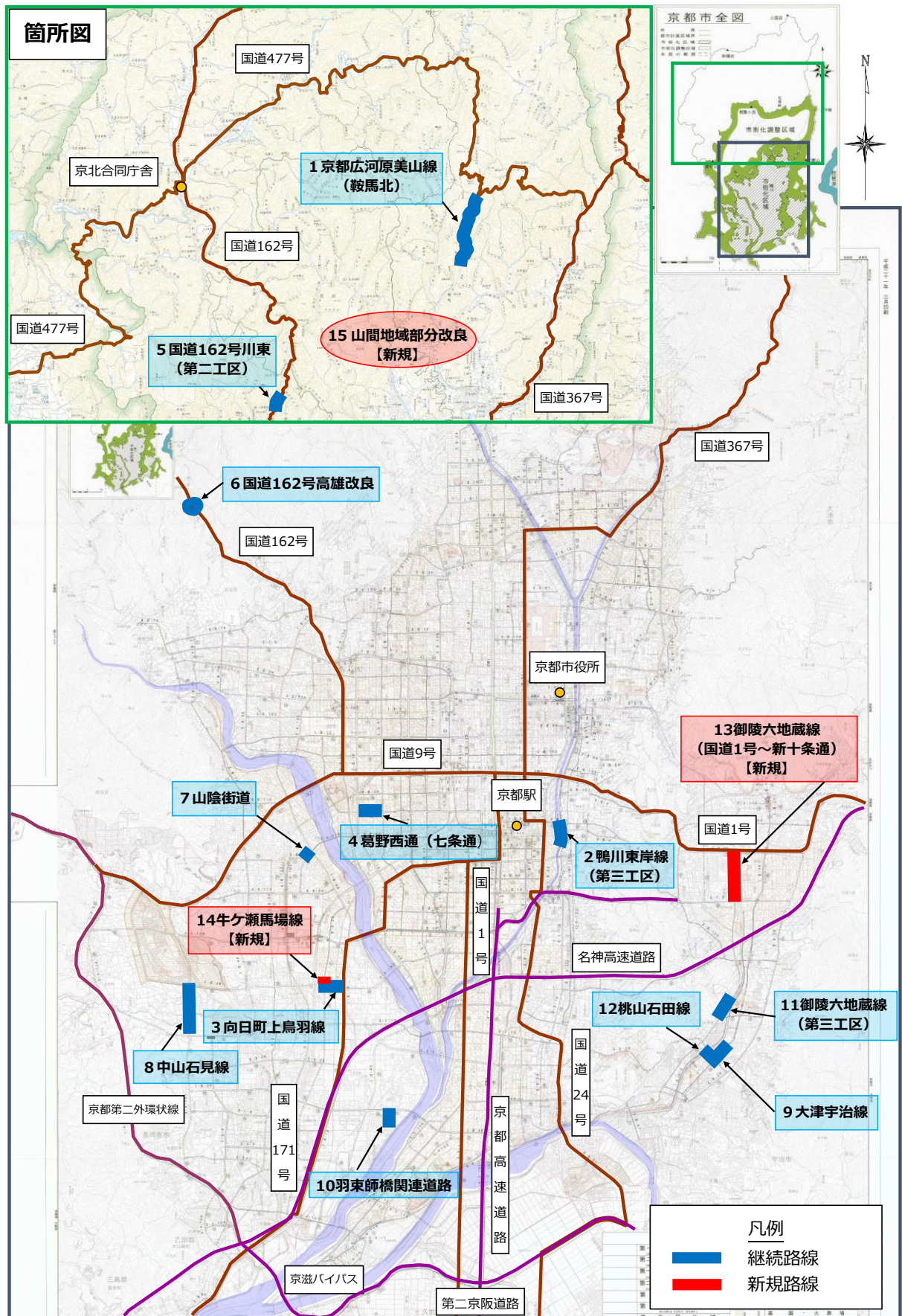
今後とも、国費など予算確保に努め、現計画に引き続き、「みんなのみちづくり計画」案に基づく道路整備を着実に進めていきます。

## 5 今後のスケジュール

令和8年5月26日	まちづくり委員会報告
5月末	「みんなのみちづくり計画」の内容確定
6月上旬	「みんなのみちづくり計画」公表

〔表1〕 整備を進める「みち」一覧

	路線名	行政区	継続路線	新規路線
1	京都広河原美山線（鞍馬北）	左京区	○	－
2	鴨川東岸線（第三工区）	東山区	○	－
3	向日町上烏羽線	南区	○	－
4	葛野西通（七条通）	右京区	○	－
5	国道162号 川東（第二工区）	右京区	○	－
6	国道162号 高雄改良	右京区	○	－
7	山陰街道	西京区	○	－
8	中山石見線	西京区	○	－
9	大津宇治線	伏見区	○	－
10	羽束師橋関連道路	伏見区	○	－
11	御陵六地藏線（第三工区）	伏見区	○	－
12	桃山石田線	伏見区	○	－
13	御陵六地藏線（国道1号～新十条通）	山科区	－	○
14	牛久瀬馬場線	南区	－	○
15	山間地域部分改良	－	－	○



〔図1〕整備を進める「みち」の箇所図

# 案

## みんなのまちづくり計画

～ひと・まち・やまをつなぐ～





A large, empty rectangular box with a blue border, intended for writing or drawing.

みなさんが考える、未来の京都の「みち」について自由に書いてください。



「みち」は、京都のまちの文化や歴史が培われた“まち柄”を反映する“京都の顔”です。

「みち」は、「かわ」や「はし」、「みどり」とともに、京都の文化的な営みに不可欠な基盤であり、「みち」自体が京都の「文化」そのものであると言えます。

この計画では、本市の若手職員を中心に50年後、100年後の京都と、誰もが幸せを感じる京都の「みちづくり」のあり方を、以下の4つの考え方にまとめました。

「くらす（住みやすいまち）」

「ひらく（災害に対するしなやかさ）」

「きわめる（まちの賑わい）」

「つなぐ（人やもの、地域とのつながり）」

「みち」は、これからも、京都の「まち」、「ひと」、「文化」を支えていきます。

## くらす

### 住みやすいまち

- ・楽しく“まち歩き”できる「みち」
- ・誰にでも“やさしい”「みち」
- ・人も自転車も車も“移動しやすい”「みち」

「みち」は、人々が時にたちどまり、混ざりあう舞台であり、「門掃き」や「打ち水」などの京都の文化的な営みを育んできました。

「みち」は、人々の日々の暮らしが営まれる「ケ（日常）」の場として、「ハレの日（非日常）」においては、祇園祭の山鉾巡行や地蔵盆の舞台へと姿を変えます。

子どもたちが歌う通り名のわらべ歌が物語るように、京都の「みち」は「まち」や「ひと」と深い絆で結ばれており、京都の人々の暮らしの中に息づいてきました。



## ひらく

### 災害に対するしなやかさ

- ・命をつなぐ「みち」
- ・安全・安心に避難することができる「みち」
- ・孤立させない「みち」

わたしたちは、千年以上の歴史の中で、幾度もの戦乱や大火等の危機を克服し立ち直ってきましたが、「みち」はどんな時も、「まち」と「ひと」をつなぎ、先人たちの不屈の精神と文化力、「まち」の立て直しを支えてきました。



## きわめる

### まちの賑わい

- ・賑わいを創出する「みち」
- ・地域の魅力を引き出す「みち」
- ・産業を発展させる「みち」

京都に都が移された1200年前、碁盤の目状につくられた朱雀大路を中心とした大路小路によって、美しく整えられた「まち」が誕生しました。

やがて、一条、二条等の大路が家名として定着し、小路に集まった職人たちが「まち」の個性を生み出し、路地は人々の交流を育んできました。

「みち」は「まち」を変え、「まち」の個性を創ってきました。



### 人やもの、地域とのつながり

- ・地域と地域をつなぐ「みち」
- ・駅などの交通拠点と人の暮らしをつなぐ「みち」
- ・住んでいる人も、訪れる人も快適に周遊できる「みち」

## つなぐ

時が経つのを忘れて歩いてしまう路地、文人墨客が思索にふけた哲学の「みち」、多くの人が行き交い、憩う鴨川沿いの「みち」は、いつの時代もわたしたちに安らぎと文化的な時間を与えてくれます。

「みち」は、モノを運ぶだけでなく、時間をも超えて人や地域の絆をつなぎ、そして未来へと紡いでいきます。



## 整備を進める 「みち」

都市計画道路や山間部等の道路のうち、今後10年以内に新設や拡幅する「みち」を、「みちづくり」の4つの考え方に加えて、賑わい創出効果、道路機能、事業の実現性、早期の効果実感を考慮して選定しました。

選定に当たっては、京都の地形的特性を踏まえて、「まちのみち」と「やまのみち」に分けて考えています。

「みちづくり」を進める際には、地域の皆様の御支援や御協力が必要不可欠であり、地域とのコンセンサスを形成しながら取り組んでいきます。

### まちのみち

都市計画道路の整備により、まちの賑わいを創出し、生活環境の向上、移住・定住を促進するなど、「みち」の整備により、「まち」を変え、都市の魅力向上を図ります。

### やまのみち

山間部等において、地域と地域、地域と市街地を結ぶ「みち」の整備により、住んでいる方だけでなく訪れる方のウェルビーイングの向上を図ります。

また、大規模な道路整備の他に待機スペースの確保やカーブにおける見通しの改善等、道路を部分的に改良する「山間地域部分改良」を本計画に位置付けました。地域の特色に応じた「まちづくり」に寄与する「やまのみち」について、地域のみなさまとともに議論しながら、整備に向けて取り組んでいきます。

### 「みち」の一覧

	路線名	行政区	継続路線	新規路線
1	京都広河原美山線（鞍馬北）	左京区	○	—
2	鴨川東岸線（第三工区）	東山区	○	—
3	向日町上鳥羽線	南区	○	—
4	葛野西通（七条通）	右京区	○	—
5	国道162号 川東（第二工区）	右京区	○	—
6	国道162号 高雄改良	右京区	○	—
7	山陰街道	西京区	○	—
8	中山石見線	西京区	○	—
9	大津宇治線	伏見区	○	—
10	羽束師橋関連道路	伏見区	○	—
11	御陵六地藏線（第三工区）	伏見区	○	—
12	桃山石田線	伏見区	○	—
13	御陵六地藏線（国道1号～新十条通）	山科区	—	○
14	牛ヶ瀬馬場線	南区	—	○
15	山間地域部分改良	—	—	○



誰もが幸せを感じる未来の京都を、わたしたちの「みち」が創出することを信じて、「みんなのみちづくり計画（みんみち）」を着実に進めていきます。

